

ダブリンコア関係者との業務懇談会の開催について（案内）

総務省の公募事業「新 ICT 利活用サービス創出支援事業」の一課題として採択された「メタデータの相互運用性の確保に向けた環境整備事業」（代表提案者：国立大学法人筑波大学）に関連して、メタデータ共同構築事業検討会で招へいするダブリンコア関係者と当館職員等との業務懇談会を開催する。

記

1. 日時

平成 22 年 12 月 7 日（火） 14:30 ～ 17:30（休憩を含む）

2. 場所

国立国会図書館総務課第 2 会議室（東京本館 3 階南 TV 会議システムを使用）

〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1

※詳細は次ページをご覧ください。

3. 出席者

- ・メタデータに係る海外有識者
- ・メタデータ情報基盤整備事業（総務省公募事業）関係者等
- ・国立国会図書館関係者

4. 主な議事

- ・日本におけるメタデータに係る取り組み
- ・米国及び海外におけるメタデータに係る取り組み
- ・意見交換

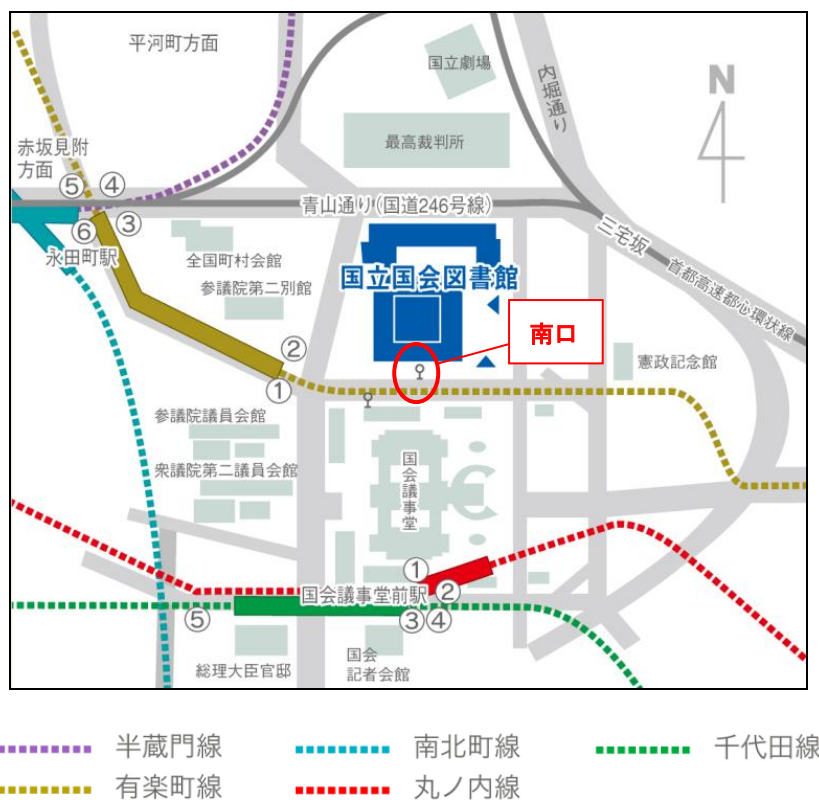
5. 本件に関する問い合わせ先

国立国会図書館総務部企画課 白石 啓（しらいし けい）

電話：03-3581-2331（代表）

メールアドレス：ke-shira@ndl.go.jp

※会場までの案内図



◎会場までのアクセス

- ・ 東京メトロ有楽町線「永田町駅」2番出口 (A) から徒歩 3分
- ・ 東京メトロ半蔵門線、南北線「永田町駅」3番出口 (B) から徒歩 8分
- ・ 東京メトロ丸の内線、千代田線「国会議事堂前駅」1番出口 (C) から徒歩 12分

南口 (赤○部分) からお入りいただき、受付で「総務部企画課 白石 啓 (しらいし けい)」の名前をお申し付けください。

議事録	
「新 ICT 利活用サービス創出支援事業」メタデータ情報基盤構築事業 第二回 検討会 議事録	
開催日時	平成 22 年 12 月 7 日(火) 14:30~18:00
場所	国立国会図書館総務課第2会議室(東京本館3階南) ※TV 会議システムを使用 〒100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
作成者	メタデータ情報基盤構築事業事務局 団

■出席者（敬称略、順不同）

Thomas Baker (CIO of DCMI)

Daniel Chudnov (onebiglibrary.net)

Corey Harper (New York University Libraries)

Liddy Nevile (La Trobe University)

Stuart Weibel (ex-OCLC)

筑波大学 図書館情報メディア研究科 教授 杉本 重雄

筑波大学 図書館情報メディア研究科 講師 永森 光晴

インフォコム株式会社 デジタルアーカイブシステム部 テクニカルクリエイショングループ 課長 鳥越 直寿

インフォコム株式会社 テクニカルクリエイショングループ 副課長 岩杉 大輔

インフォコム株式会社 システム営業グループ 近藤義照

株式会社ナレッジ・シナジー 代表取締役 内藤 求

国立国会図書館 館長 長尾 真（検討会中に表敬訪問）

国立国会図書館 総務部企画課 課長 田中 久徳

国立国会図書館 総務部企画課 企画係 白石 啓

国立国会図書館 総務部情報システム課 小澤弘太

国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課 大柴 忠彦

国立国会図書館 収集書誌部 収集・書誌調整課 佐藤 良

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 課長 大場 利康

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 白石 郁子

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 西村大

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 柴田洋子

国立国会図書館 関西館 電子図書館課 前田直俊

※関西館は TV 会議システムにて参加

農林水産省農林水産研究情報総合センター 林 賢紀

## メタデータ情報基盤構築事業 事務局 団 宏純

### ■開会挨拶(筑波大学 知的コミュニティ基盤研究センター 教授 杉本氏)

#### ○挨拶要旨

総務省より委託を受けて、メタデータの相互運用に関する共同事業を開始している。

具体的には、メタデータレジストリが、メタデータのインフラにとって今後重要な役割を果たす事になると考え、構築を進めている。本レジストリには、セマンティックウェブの技術を応用する。

今回の海外からの招聘行事は、アメリカを中心に世界で起きているメタデータを巡る動向を関係者に広め、事業の発展を進展させる目的である。

### ■表敬挨拶(国立国会図書館 館長 長尾真氏)

#### ○挨拶要旨

国立国会図書館では、紙資料のデジタル化事業をはじめ、様々な事業を実施している。

事業の中には、ダブリンコア・メタデータを使用しているものもある。今後は、ウェブ上の資料のメタデータ作成の自動化などを検討していきたいと考えている。

今回の議論が、今後の事業発展の参考になるように期待する。

### ■各自自己紹介(杉本氏)

### ■NDLにおける事業(白石 啓氏)

#### ○白石啓氏要旨

国立国会図書館における取り組みを報告する。

#### 1. Web NDLSH(<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlsh>)

国立国会図書館件名標目表(NDLSH)をWeb上の様々なアプリケーションやシステムで活用できるようにウェブ版を公開した。

Web NDLSHは以下のサービスを提供している。

- ・URI(Uniform Resource Identifier)を用いた外部からのデータ参照
- ・RDF/XML形式、RDF/turtle形式、JSON形式によるNDLSHのデータのダウンロード
- ・SPARQLを用いた外部からの検索
- ・LCSHやウィキペディアとのリンクの生成・表示
- ・NDLC及びNDCによる検索
- ・細目付き件名(例:アメリカ合衆国 -- 外国関係 -- 日本 -- 歴史 -- 19世紀)の提供
- ・NDLSHのシソーラス構造の可視化

#### 2. Web NDL Authorities

個人名、団体名、家族名といった名称に関する典拠データを LOD パージョンにて公開する準備をすすめてい

る。

### 3. DC-NDL

DC-NDL と名付けたメタデータ・スキーマを 2001 年より公開しており、2010 年 6 月に改訂を行った。

今回の改訂では、メタデータ記述語彙、Application Profile、RDF スキーマに分割した。

また、今回の改訂では、ダブリンコア・メタデータの周辺環境の変化に対応し、反映させている。

今後、NDL Search から、書誌情報を RDF 形式で公開する予定である。

### 4. NDL Search(<http://iss.ndl.go.jp/>)

NDL Search という名称の新しい検索サービスの開発・発展を行っている。プロトタイプは、2010 年夏に公開しており、2012 年 12 月に完成される予定である。知の拠点となるべくシステム開発を進めている。

#### ○質疑応答

・ Web NDLISH などの提供は、Linked Open Data を目的としたものか。

→長い目で見れば、目的としている。(NDL)

・ OCLC における VIAF や RDF Topicmaps への参加は検討しているか？

→まだ。VIAF については参加の計画がある。なお、OCLC へは今年から MARC フォーマットで データ提供を開始した。(NDL)

・ マルチリンガルな Linked Open Data について

→Web NDLISH は SKOS/RDF 形式であり、LCSH へのリンクも貼っている。たとえば、フランスの RAMEAU も LCSH へのリンクを貼っている。これらをリンクすることができれば、多言語シソーラスも可能かもしれない。(NDL)

#### ■米国における取り組み (Daniel Chudnov 氏)

##### ○ Daniel Chudnov 氏要旨

MADS/RDF を発表した。追加のリソース(名称典拠など)を Authorities & Vocabularies (<http://id.loc.gov/authorities>) に投入できるように準備中。Prints & Photographs Online Catalog (<http://www.loc.gov/pictures/>) という LC 内のデジタルコレクションにもメタデータの付与を開始した。そのほか、Linkypedia (<http://linkypedia.inkdroid.org/>) (文化遺産をつなぐサイト)や Google scholar のサービスについて等紹介。

#### ■W3C Library Linked Data Incubator Group activities (Thomas Baker 氏)

##### ○ Thomas Baker 氏要旨

W3C Library Linked Data Incubator Group は、セマンティックウェブや Linked Data に関する技術の図書館への応用について世界的な標準化の必要性を検討する組織。IFLA の FRBR、ISBD 等のグループにアサインしている。RDF 自体の改訂の検討も始まっており、それにも参加する予定である。来年 2 月から、Provenance (=history of description)のメタデータへの記録について議論を開始する。現在は、ウェブの発展に対して、図書館が重要な役割を果たすチャンスであると考えている。

## ■ Metadata Registry (永森氏)

### ○永森氏要旨

総務省事業で開発予定であるメタデータレジストリについて説明。メタデータレジストリによって、コミュニティを越えてメタデータを共有することの必要性を説明される。

## ■ NII の事業についての説明 (武田氏)

### ○武田氏要旨

GiNii、KAKEN の RDF に関する説明や、LODAC (<http://lod.ac/>) プロジェクトについて説明。

LODAC プロジェクトでは、メタデータデザインはできるだけシンプルにしている。

元データに沿って厳密にデザインすると、非常に複雑なデータとなり使いにくくなってしまう。メタデータは、カーリル (<http://calil.jp/>) と同じスクレイピングの手法で取ってきている。こういった泥臭い方法でもこまごまのサービスができる、というのをあえて見せたい。

いずれは、Linked Open Data クラウドに入りたい。

### ○質疑応答等

・メタデータをシンプルにデザインしようとする、エレメントを多数設けなければならなくなるのでは？ (杉本氏)

→状況に応じて、提供するデータを変えるようにしている。(武田氏)

→NDL が行っているデジタル情報資源ラウンドテーブルに、武田先生の取り組み内容を活かそうである。(杉本氏)

## ■自由討議

・現在提供されている Linked Data の質は良くなく、ゴミがほとんどだというのが、データの質についてはいかがお考えか？

→とにかく RDF として出すことが大事だと考えている。(武田氏)

・デジタルリソースに関するアクセシビリティについてはどう考えるか？メタデータがアクセシビリティに果たすべき役割とは？ (Liddy 氏)

→電子書籍の領域では、EPUB や DAISY 等で、アクセシビリティの問題について取り上げられている。メタデータ上でどのような配慮が可能か、アメリカやヨーロッパの取り組みを教えてください。(NDL)

→National Public Inclusive Infrastructures (NPIIs) (<http://npii.org/>) という取り組みがある。(Liddy 氏)

・セマンティックウェブと Linked Data は新しい言語を設計することである。自然言語をウェブの単純なプロトコルの上に載せる際にどうするのか、という問題がある。ウェブの言語はカタログの言語とは違う。(宮澤氏)

→RDF の記述はコンピュータ向けに厳密でなければならないが、ウェブ上での消費者はまずは機械であり人間は二の次というのも問題かもしれない。

・典拠データを RDF 化することの意義は理解できるが、書誌データを RDF 化することの意義や、実践例はあるか？ (NDL)

→スウェーデン国立図書館が、書誌データを RDF 形式で提供している。

→全世界の目録がリンクし合うことができるという意義がある。

・ dcterms:title の値域が rdfs:Literal に制約されてしまった件について。日本語には読みがあり、さまざまな title は読みとセットで表す必要があるため、データをリテラルではなく入れ子の構造にせざるを得ないので、困っている。(NDL)

→標準化する側としては、各分野の声に耳を傾け過ぎていたら決められない。日本で NDL と NII とが協力して読みの表現について実績をつくってしまい、日本におけるデファクトスタンダードの形にしまえば問題ない。その方が日本のユーザにとっても便利だろう。語彙の値域をリテラルにするか、リソースにするか、それとも指定しないかは悩ましい問題。(Tom 氏)

→値域を指定するかどうかは、厳格に値を強要するかしないかのどちらを取るかという問題。メインのユーザを機械と捉えるのであれば、値域を厳格に設定した方が望ましいが人間と捉えるのであれば厳格に設定しない方がよい。(Corey 氏)

・ RDF ではリテラルかリソースかを厳密に分けておくことが重要。値域ごとに語彙を分けるという方法もある。構造化する場合は、SKOS の拡張ラベルの事例が参考になるのでは。(skosxl:prefLabel、skosxl:altLabel の値域はリソースが指定されているが、リテラルを持たないかという議論があつたらしい)(Tom 氏)

・ デジタルアーカイブに関するメタデータ(管理メタ・保存メタ)について、具体的な取り組み等はあるか?(NDL)

→W3C に Provenance Incubator Group(<http://www.w3.org/2005/Incubator/prov/>) というグループがある。(Tom 氏)

・ MARC フォーマットは今後どうなっていくか?(NDL)

→LC と OCLC がどうするかに拠るのでは。経済的な理由(図書館にどれだけ資金がつか)も大きい。(Stuart 氏)

→MARC と、ウェブ等の新しい情報の流れとの接点が無くなってきていることは事実。

---

■閉会挨拶(杉本)

以上